

4

海賊版はどうやって 生まれたの？

複製の技術の進化が、 海賊版も進化させてしまった

海賊版が生まれたのは一般的に、書籍が広く出回るようになった時期とされています。15世紀半ばに、ドイツのヨハネス・グーテンベルクが、文字や記号が彫られた「活字」を組み合わせて文章などの版を作り、そこにインクをつけて印刷する「活版印刷術」を発明します。その技術は、手作業とは比べられないほどの大量の複製を可能にし、15世紀後半にはヨーロッパの多くの地域で使われるようになりました。



海賊版はなぜ生まれ、
その始まりはどんなものなのでしょうか。
海賊版のなりたちを見てみましょう。

ただし、便利な技術が広まれば広まるほど、正式な商品ばかりでなく、不正商品も出回るようになるものです。書籍も同様です。書籍の海賊版が大量に流通し始めると、印刷業者は対策として、印刷物は保護の特認を受けたもののみ印刷できるというルールを考え出しました。

19世紀になると、ヨーロッパでは文化が国をまたいで広がるようになります。自国の作品はルールを設けることなどで保護されていましたが、他国のものは許可なく複製や改変されるようになってしまったため、1886年に著作者の権利に関する国際的なルールが定められました。正式名称「文学的及び美術的著作物保護に関するベルヌ条約」、通称「ベルヌ条約」と呼ばれるもので、スイスのベルヌで締結されました。これにより、加盟国の間では、登録などの手続きをしなくても、著作者の権利は守られるようになりました。

ベルヌ条約とともに著作物を 保護してきた「万国著作権条約」

ベルヌ条約とともに、著作物を保護してきたのが、「万国著作権条約」です。ベルヌ条約加盟国では、著作物を作った瞬間から著作権が発生しますが、非加盟国の中には著作権保護のための登録を必要とする国もありました。そこで、万国著作権条約を作り、加盟すれば特別な登録をしなくても作品に©(コピーライト)をつけるだけで保護を受けられるようにしたのです。

※現在の日本では©をつけなくても著作物が作られた時点で著作権は発生します。

多くの手間と時間をかけて できた作品を盗んで 儲けているのが海賊版

「海賊版は悪いものだ、もっと広く知ってほしい」と語る
漫画家一本木蛮さん。漫画作品が生まれるまでの苦労と、
漫画家として感じる海賊版の影響について、お話を伺いました。

Q 一本木さんは、どのようにして 漫画家になったのですか？

私は小学生の頃からハガキに絵を描いて雑誌によく投稿する子どもで、その縁で雑誌にイラストを描く経験もしましたが、正式な漫画家デビューは17歳のときです。漫画家は、雑誌に投稿し、賞を取ってデビューするのが一般的ですが、私の場合はちょっと違います。『うる星やつら』のファン代表の1人として、アニメイベントのレポートを漫画にしたのがデビュー作になりました。

あるとき、『うる星やつら』のラムちゃんのコスプレをしている姿がアニメ雑誌に載り、そのときの出来事を絵に描いてハガキを出したら、また同じ雑誌に掲載されたんですね。そんな経緯で「この子、おもしろいね」と注目されるようになり、編集部から声がかかって、デビューのきっかけとなったんです。

その後、大学生になってから、『一本木蛮のキャンパス日記』の連載が始まりました。当時は日記漫画がほとんどなかったからか、結構長く描かせてもらいました。

Q 漫画作品を生み出すまでで 一番大変な作業はなんですか？

ネームですね。漫画家は漫画を描いていないときも、常に「これ、おもしろそう」とか「この設定、今度使ってみたい」といったアイデアを集めてい

ます。そうしたアイデアをつなげたり、組み立てたりして、漫画の設計図となるのが、一般的にネームと呼ばれるものです。

「見開き」という、本の左右向かいあう2ページの状態の紙に、えんぴつで大まかに漫画のコマを描きます。「ここは大きく使おう」とか「ここでこのセリフを言わせよう」とか、キャラクターの配置や顔の動きなども考えます。そのほか、背景についてもここで考え、自分の頭の中で描いているものを少しずつ形にしていくのです。

自分の中で完成となったら、担当編集者のチェックを受けます。「このキャラクターは、ここでこんなことは言わないんじゃないの?」とか、「この内容は、今の読者層にヒットしないんじゃないかな」などという客観的なアドバイスを受けます。自分の中では矛盾していなかったものも、ほかの人が読むことで、作者が都合よく話を作ってしまっている、つまり読者が読みづらいような状態になることを防ぎます。だから、ネームは描き直しになることもしばしばです。5～6回描き直すというのはザラにあることですね。

特に新しい作品を作り始めたときは、自分の中でもキャラクターの設定がつかみきれていないことが多くて、いろいろと不安定になりがちです。



海賊版かどうかを見分けるにはどうしたらいいの？

「早い」「無料」など お得すぎる話には裏がある

基本的に漫画が新刊として売り出されてすぐに、無料で読めるということはありません。出版社が特別に行っているサービスや、電子書籍の試し読み、電子書籍配信サービスによる期間限定サービスなどが行われていることはありますが、発売・公開されてすぐに無料というケースがあれば、正規版かどうかを疑ったほうがいいでしょう。

また、映画やテレビ番組は、のちにDVDとして発売されることがありますが、公開されてすぐにDVDとして売られていたり、すぐにインターネット上で視聴できたりする場合は、海賊版の可能性が高いです。ただし海外の作品で、その作品が作られた国で先に公開され、日本では半年後に公開などという場合、現地版のDVDが日本で先行販売されるケースはあります。

正規の商品よりも、極端に安かったり、格段に早く入手できたりする場合は、まずは海賊版であることを疑いましょう。

出版物や音楽には、右ページで紹介するような、正規版であることを証明するマークがありますので、覚えておくと安心です。



海賊版を見たりダウンロードしたりすることがよくないとわかっていても、一見、正規版かどうか分からない場合もあります。どこで見分ければいいのでしょうか。

正規版と証明するマーク

正規の電子出版サービス だと証明する「ABJマーク」

「ABJマーク」は、作品の正式な権利を持っている作者や出版社からきちんと許可を受けて提供されているサービスだということを示すマークです。ABJとはAuthorized Books of Japanの略で、公認された=Authorized、日本=Japanの本=Booksという意味です。電子書籍のアプリやサイトの目につくところ、おもにトップページに掲示されていて、このマークがあるサービスで読めば、安心です。



提供：一般社団法人ABJ

正規の音楽・映像配信サイト だと証明する「エルマーク」

「エルマーク」は、正式な権利を持っているレコード会社・映像製作会社から提供され、配信されている音楽や映像だと示すマークです。配信会社の公式サイトや作品の購入ページ、再生画面ページなどに表示されています。このマークがないからといって、違法な作品というわけではありませんが、1つの安心の基準として知っておきましょう。エルマークには、許されている行為ごとに、マークに違いがあります。



視聴のみできる
正規コンテンツです



ダウンロードできる
正規コンテンツです

提供：一般社団法人日本レコード協会

ポイント

公開されてすぐ無料になったり、商品化されたりするのは正規版でない可能性も。正式に許可を受けたサービスかどうかは、業界ごとに作られているマークをチェックしてみて。